

地域の活動事例

団体名	鶺の木二丁目町会
テーマ	日頃交流で災害に強い街づくり、鶺の木二丁目町会防災マニュアル
内容	<p>○町会の取り組み</p> <p>鶺の木二丁目町会は、東急多摩川線鶺の木駅と周辺商店街を含む活気のある町会で、隣接町会とも良好な関係を築いている。</p> <p>「自分たちの町は自分たちで守る」を基本に、自主的かつ積極的に防火防災訓練等を実施してきたが、令和元年の台風19号の風水害の避難経験と教訓等から、更なる地域住民の自助力の向上及び地域共助体制の確立を図るため、町会独自の防災に関するマニュアル「鶺の木二丁目町会防災マニュアル」を作成するに至った。</p> <p>○防災対策プロジェクトの発足</p> <p>震災、風水害発生時、計画に基づいて住民が落ち着いて行動できるように、また町会内の協力体制を確立するために、事前の活動ルールを定めたマニュアルを作成するプロジェクトを令和元年に発足させた。</p> <p>プロジェクトメンバーには、町会長を委員長とし、町会員、大田区、地域包括支援センター、社会福祉協議会、消防署と実効性のあるメンバーで構成し、地域一体となって取り組んだ。</p> <p>プロジェクト発足後、月2回のプロジェクト会議を開催し、関係機関を交えての課題抽出のための検討を約2年6カ月にわたり、継続的に実施してきた。また、会議開催と月1回街歩きにより町会内の危険箇所、避難経路等の実態把握に努め、防災マニュアル作成の基盤となる実効性のあるきめ細かい情報収集を繰り返し行った。</p> <p>○町会独自の防災マニュアルの作成</p> <ol style="list-style-type: none">① 月1回の街歩きによる情報収集と併せ、多摩川氾濫時の浸水状況等の実態調査を重ね、鶺の木二丁目地区独自の防災マップを作成した。更に、震災、風水害発生時の避難所までの所要時間や避難所の収容人数、避難所が開設される警戒レベル等を明記し、発災時に必要な情報をまとめた。② 震災、風水害時の行動について、発災直後から時間経過とともに自助共助それぞれの行うべき行動をシナリオ化し、子供から高齢者まで分かりやすいものとした。③ 個人が行う事前対策（自助）と、地域で助け合うための必要な事前対策（共助）を明確化し、更に事前対策（共助）では、参集や資器材調達等、テーマ別に事前対策リストを盛り込み、災害に強い街づくりを推進している。 <p>○避難施設の拡充</p> <p>大田区と協定を締結している東京高等学校と鶺の木三丁目町会と話し合いを重ねた結果、避難エリアを拡充するとともに、避難所運営マニュアルを作成し、いざという時の体制を整備した。</p> <p>○今後の取り組み（要配慮者支援）</p> <p>大田区・地域包括支援センターと連携を図り、災害発生時の要配慮者の支援方針に</p>

地域の活動事例

についての検討も重ねている。今後の支援体制の取り組みとしては、要配慮者を支援する者（お助け隊）の募集を行っていく。

現在は、実施要領の整備を図っており、引き続き関係機関との連携を図り、要配慮者の細やかな実効性のある支援体制の確立を図っていく。